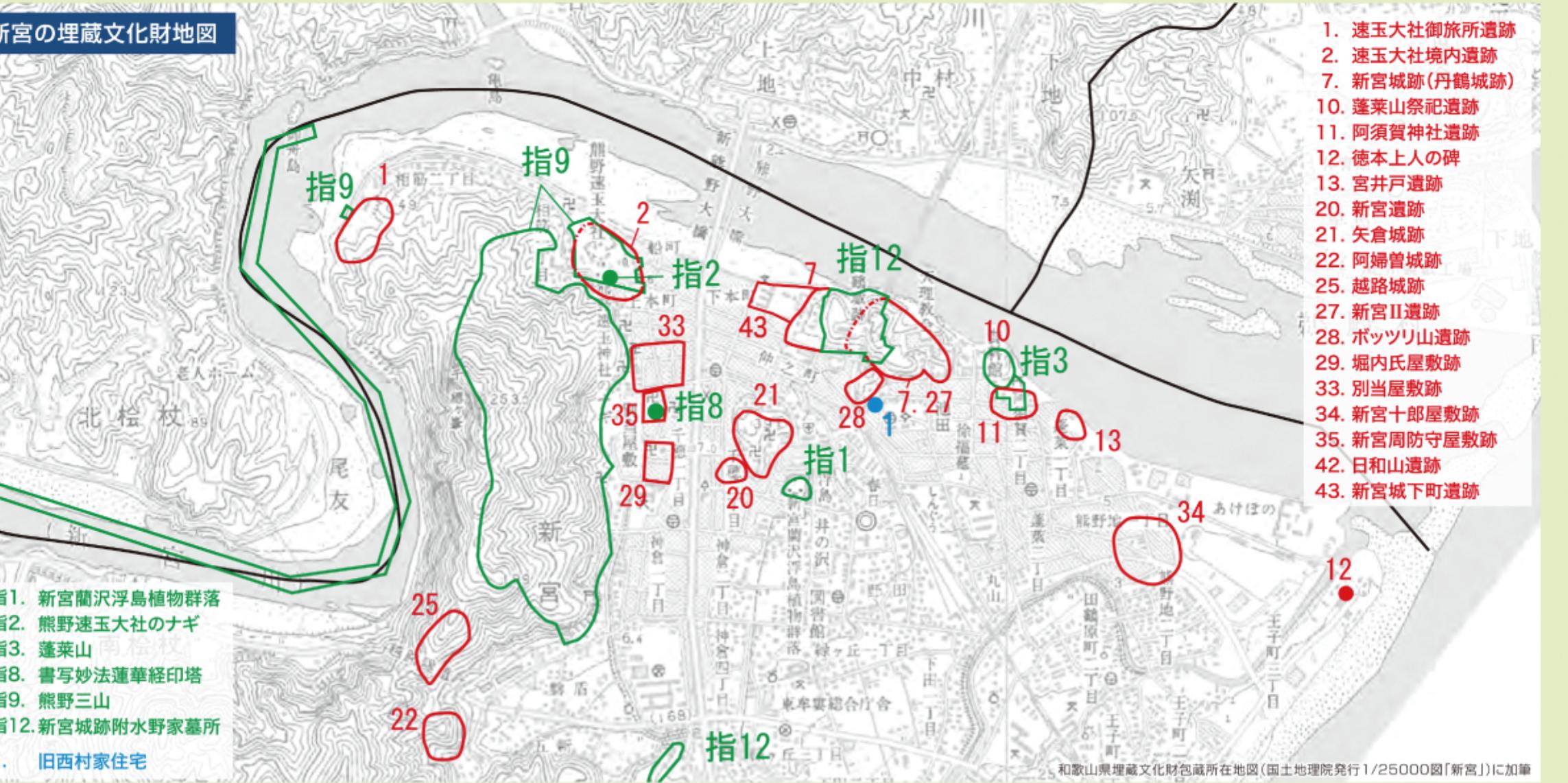


**歩いて知るきのくに歴史探訪  
新宮城跡周辺の文化財を訪ねる**

**新宮市**は、熊野三山の一つである熊野速玉大社の門前町として古くから栄えました。また、熊野川の水運を利用した木材の集積地として木材産業も盛んで、江戸時代には城下町として、あるいは大坂と江戸を結ぶ廻船の寄港地としても賑わいをみせ、現在でも熊野地方の中心都市として位置づけられています。

**新** 宮城跡は、熊野川沿いの独立丘陵である丹鶴山周辺に築かれた平山城で、「丹鶴城」あるいは「沖見城」とも呼ばれています。規模はコンパクトではあるものの、石垣などが良好に残存しています。近世新宮の政治的・軍事的・経済的なシンボルとして、また、学術的にも重要であることから、平成15年に「新宮城跡附水野家墓所」として国史跡に指定されました。さらに昨年は「続日本100名城」にも選定されています。

新宮城跡周辺には、世界遺産をはじめとする国指定史跡や重要文化財などの文化財が数多くあります。このイベントでは、新宮城跡のほかに、世界遺産登録範囲に含まれる阿須賀神社・蓬萊山と蓬萊山の斜面から出土した御正体を展示する新宮市立歴史民俗資料館、保存修理が行われている重要文化財の旧西村家住宅、近年の発掘調査で重要な遺跡であることが判明した新宮城下町遺跡の現地を訪ねます。マップを手に新宮城跡周辺の文化財を巡り、新宮市の歴史を再発見しましょう。



### 原始の熊野・新宮

新宮市の原始の遺跡は、熊野川右岸に沿う高地上に立地します。速玉大社境内遺跡からは、縄文時代前期末・中期・後期の土器や石器類が出土しており、速玉大社御旅所遺跡からも縄文時代中期の土器が出土しています。稻作が始まった弥生時代前期の遺跡は明らかになっていませんが、弥生時代中期頃になると阿須賀神社遺跡・新宮城下町遺跡で土器や石器類が出土しています。阿須賀神社遺跡では弥生時代後期末頃から古墳時代にかけての竪穴建物が見つかっており、東にある宮井戸遺跡にかけて集落が展開していたことが窺えます。このほか、弥生時代の遺物としては、神倉神社経塚から突線鉢4式銅鐸の破片が出土しています。経塚の最下層からの出土で、埋められた時期が中世と判断するか、弥生時代と判断するかで評価が分かれますが、後者であった場合、神倉神社の起源にも関わる遺物かもしれません。古墳時代の集落遺跡はみつかっていますが、当時のお墓である古墳は確認されていません。このことはヤマト王権とは一線を画した勢力がいたことを示唆するものかもしれません。

### 記紀に登場する熊野・新宮

「日本書紀」の神武東征の件に「神武天皇が狭野を越えて熊野神邑に至り、天磐盾に登る」とあります。狭野は新宮市の南部に位置する佐野のことで、狭野から越して至る熊野神邑は、現在の熊野地・新宮であると捉えることができます。また、天磐盾は神倉神社・ゴトビキ岩であるとされています。

### 古代・中世の熊野・新宮

新宮市付近は、「和名類聚抄」にある牟婁郡五郷のうち神戸郷に比定されています。また、「延喜式」神名帳には式内社として熊野速玉大社が登場していており、文献で当地の様相を窺うことができます。平安時代後期から鎌倉時代になると、熊野三山への参詣は上皇・貴族により隆盛を極めます。この時期以降の遺物は、熊野速玉大社や丹鶴山周辺でも多く出土します。丹鶴山周辺には、平安時代頃には熊野別当が別邸を築き、平安時代末頃にはこの地に別当屋敷が移されたとあります。また、丹鶴城の名称の由来にもなっている「丹鶴姫」が東仙寺を建てたとの記録も残り、同じ頃に丹鶴山南麓には香林寺(宗応寺)があったとされています。鎌倉時代を過ぎると、熊野別当の勢力が衰退しますが、熊野三山の上位の役僧である宮崎氏が東仙寺を修理し、新宮城の二ノ丸である現正明保園付近を居館としたとあります。戦国時代になると堀内氏の力が台頭し、現在の全龍寺付近に館を築きますが、戦国時代末には丹鶴山に城を築き、麓に城下町形成を行ったとの説も伝わっています。

### 神宿る蓬萊山

新宮市には秦の始皇帝の命で不老不死の秘薬を探し求め日本に渡航した徐福伝説が伝わっていますが、この伝説が残るところには蓬萊山があります。新宮市の蓬萊山は、熊野川沿いにあって三角オムスピのような形をしています。日本の原始信仰は、自然崇拜といわれ山、滝、岩、巨木、川などに神が宿るとして敬いました。那智大滝や神倉神社のゴトビキ岩もこれらに相当し、現在に至るまで信仰の対象となっています。また、三角形をした山は神奈備山と言われ、富士山や奈良県の三輪山などと同じように蓬萊山も原始より信仰の対象となっています。

蓬萊山の南麓からは、弥生時代末頃から古墳時代にかけての竪穴建物が見つかっており、それ以降の遺物も出土していますが蓬萊山を崇めて生活していたことが想像できます。



### 阿須賀神社

阿須賀神社は蓬萊山南麓に位置し、蓬萊山とともに世界遺産の登録範囲に含まれています。社伝によると孝昭天皇の代の創建とされ、平安時代に神仏習合の影響により熊野権現の本地が確立してからは、大威徳明王を本地仏として祀ったとされます。熊野参詣道中辺路で熊野速玉大社の次に阿須賀神社(王子社)に参詣したとされます。拝末社としては、阿須賀稻荷神社や徐福の宮などが祀られています。また境内には、新宮城第2代城主の水野重良が寛永八年(1631)に寄進した手水鉢や徐福が不老不死の秘薬として探し求めたとされる天台鳥薬(テンダイウヤク)の古木があります。



### 御正体

御正体は懸仏とも呼ばれ、鏡面に映し出された仏の姿をあらわしたものであります。これは神仏習合思想により、神は仏が衆生を救済するために姿を変えて現れた仮の姿であるとし、鏡に仏の姿を刻繋したり、鏡に立体的な仏像(写真)を取り付けたりしたものです。蓬萊山の斜面にある大岩を利用して構築された小石室付近から200点近く発見されています。これらは、平安時代から室町時代に熊野詣の貴族や武士・有力商人たちが阿須賀神社に奉納したものと考えられています。現在、出土した御正体は、阿須賀神社に隣接する新宮市立歴史民俗資料館で保管・展示されていますが、大量に発見された例は数少ないことから県指定文化財になっています。



**歩いて知るきのくに歴史探訪 ~新宮城跡周辺の文化財を訪ねる~**

新宮城跡周辺の文化財マップ  
平成30(2018)年2月4日発行  
発行:公益財団法人和歌山県文化財センター(〒640-8301 和歌山市岩橋1263番地の1)  
\*この見学会は 平成29年度和歌山県内埋蔵文化財地域の特色ある埋蔵文化財活用事業の補助を受けて実施しています

## 旧西村家住宅

旧西村家住宅は、丹鶴山の南東、ボツリ山の南側を通る伊佐田通りに面した、洋風の住宅です。西村伊作氏が自ら設計した3度目の自邸になります。大正3(1914)年に建て始めて、翌年の夏に完成しました。この建物は居間(リビング)や食堂(ダイニング)を中心の間取りとされ、家族の生活空間を大切にしています。また、電気やガスが引かれ、給排水設備や給湯設備も有しています。いずれも現在では当たり前となった住宅のスタイルですが、それらがあまり普及していなかった時代に高いレベルで実現させています。そして、そのすがたを今日までよく伝える希少な建物として、平成22年6月に国の重要文化財に指定されました。

建物は「西村記念館」として昭和53年より一般に公開され、平成10年からは建物の寄贈を受けた新宮市が管理を引き継いでいます。

建築後100年が経過した建物は、建物下の地盤が一部で沈み、その影響で屋根や壁に破損が生じ、その破損部分から雨漏りしてさらに傷むなど、構造的に不安定な状態となっていました。

そこで、新宮市では平成28年度から3か年の計画で、地盤の安定化を図りながら建物を健全にする保存修理工事を進めています。

工事中の調査では、大正10年代に大掛かりな改修が行われたことや、それと同時に伊佐田通りも含めた敷地内外での整備があったこともわかりました。この整備で庭に敷かれた石材は近世期以前の使用がうかがえて、新宮城の南にあった伊佐田池を埋め立てた際に周辺の屋敷地などから持ち込まれた可能性もあります。

調査の結果などを踏まえて、文化庁、和歌山県、新宮市とで検討した結果、今回の工事では大正後期の改修後のすがたに戻して修理することになりました。道向かいには大正末期と昭和戦前期に建てられた住宅が現在もあるなど、工事完成後には当時の風情をこの一画で感じることができることでしょう。

## 西村伊作

この建物を設計・監督した西村伊作氏は、明治17(1884)年に大石余平・ふゆの長男として新宮横町(現・新宮市)に生まれます。

7歳の時、移り住んでいた愛知県で濃尾地震に遭い、両親を亡くしてしまいます。その後は母方の実家である西村家の養子となって、祖母や叔父の大石誠之助などに育てられました。

明治38年頃の自邸の設計を皮切りに、以降も建物や家具などの設計を続けています。新宮市内で手掛けた建造物として、大正5年の新宮町公会堂(昨年解体された市民会館の前身建物)、同9年の新宮教会堂(現在のオーフワンド店舗付近)、同10年の旧第一尋常小学校校門(戦後に丹鶴小学校校門として移築、現存)、同15年の旧チャップマン邸(下写真の緑色屋根の建物、現存)が確認されています。南谷墓地にある大石家墓域の石積みも伊作氏の関与が想定されます。

また、西村伊作氏は教育面にも強い関心を示し、大正10年には文化学院を東京に設立します。自邸や学校の設計を通して、生活の改善や若者の成長のあり方を模索しました。同時に、住宅や教育に関する本も多く著していきます。旧西村家住宅にもそうした過程が随所にうかがえます。今回の保存修理工事によって建物の評価や伊作氏の功績をさらに高めていくことができそうです。



敷地を南から見る  
(後方にボツリ山、その向こうには新宮城跡)

居間(手前)・食堂(奥)の内観  
(明るく開放的な空間となっています)

## 紀伊国新宮城之図



## 新宮城跡

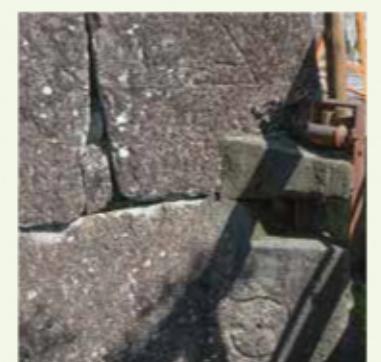
新宮城は、関ヶ原の戦いで力をたてた浅野幸長が紀州藩主となるのに伴い、浅野一族の重臣である浅野忠吉が新宮に入り、慶長六年(1601)に築城を開始しました。元和元年(1615)に一国一城令により廃城となります。しかし、元和四年(1618)に再び築城が認められます。しかし、元和五年(1619)に幸長が広島に転封になるのに伴い、忠吉は備後三原城へ移ります。紀州藩主には徳川頼宣があり、新宮城には付家老である水野重伸が入り築城を続けます。2代重良は伊佐田の堀を掘削するなどして、寛永十年(1633)に完成したとされます。その後も、度重なる地震や暴風雨により石垣や櫓などが損壊し、再三普請や作事が繰り返されています。

江戸時代を通じて熊野地方の拠点であった新宮城も、江戸幕府が廃止され、さらに明治四年(1871)の廢藩置県とともに廃城となり、城としての使命を終えます。それとともに、城内にあった建物もすべて取り壊されました。

新宮城の構造は、丹鶴山(最高所標高約60m)を中心に繩張した平山城で、山上に本丸・天守台、出丸、鐘ノ丸、松ノ丸を置き、西麓には二ノ丸や大手門、北方の川沿いには水ノ手郭を配しています。熊野川や千穂ヶ峰が天然の遮断施設となることや城下全体が周囲から隔離した平野部に位置することから城全体を巡る堀はないものの、南側に溜池状の堀「伊佐田の堀」を掘削していました。天守閣は3層



本丸枡形虎口



石垣刻印



水ノ手郭・炭納屋群 新宮市教育委員会提供

## 新宮城下町遺跡

新宮城下町遺跡は熊野川沿いにあり、国指定史跡の新宮城跡の西側に位置しています。新宮市文化複合施設建設伴う発掘調査で江戸時代、中世(平安時代末頃から室町時代)、古墳時代、縄文時代の多くの遺構が検出され、多量の土器が出土するなど、新宮・熊野の歴史を紐解く上でも大変重要な遺跡であることが判明しました。

### ●江戸時代の武家屋敷

江戸時代の遺構には、道路遺構と武家の屋敷地があります。道路遺構は2本確認しています。これらは「河原町通」と「竹矢町通」と呼ばれていたことが江戸時代に描かれた絵図などから窺うことができます。道路面は、掘削状に屋敷地より約0.6m低く構築されています。路面は川方向に緩やかに下っており、城下町の排水も兼ねていると言えます。構築当初の規模は河原町通が幅5.2mで、西側に幅・深さ約0.3mの石組みの側溝を設けています。竹矢町通は幅3.0mで、道路面はどちらも細かい円礫を敷き固めています。

屋敷地は、熊野川流域で産する花崗斑岩で築かれた石垣で区画されています。石垣の積み方は各所で異なり、江戸時代初期(浅野期)の特徴をもつ箇所や、新しい様相をもつ箇所があります。ただ、他に屋敷地区画を示す石垣などが確認されないことから、石垣の位置は城下町形成時のまま、改修を行いつつも幕末まで石垣は原位置を保っていたと判断できます。明らかになっている屋敷地の規模は、東西44m、南北35mでおよそ1,500m<sup>2</sup>を越す面積を有していることが分かりました。屋敷地は、城下町のなかでも新宮城大手門近くを占地することやその規模などから上級家臣のものと判断できます。



江戸時代の河原町通と屋敷地

### ●中世の湊

中世の遺構には、掘立柱建物群や地下式倉庫群・大形土坑群・工房跡・石段・道路遺構などがあります。

掘立柱建物には柱間が2.1mで6間×4間と当時としては大型の建物があり、連縄と建替えが行われています。地下式倉庫は11基検出しています。時期差があるとみますが、形態は大きく3タイプに分けることができます。石段・道路遺構は河原に向かって下るもので、道路遺構の両脇には石垣で区画された階段状の敷地があり、そこでは鍛冶や鋳造が行われていたと考えられます。



中世の石段・道路遺構 新宮市教育委員会提供

遺構の内容や当遺跡の立地から、中世の遺構は湊に関連するものであると想定でき、これらは鎌倉時代の文献史料に登場する「新宮津」の一部であった可能性もあります。調査で出土した遺物には東海地方や瀬戸内地方の土器類の他に多くの輸入陶磁器があり、東西日本の海上交通の中継地かつ物流拠点であったことを示唆しています。



古墳時代の土坑

### ●縄文時代・古墳時代の集落

古墳時代や縄文時代の遺構には土坑などがあり、集落が展開していたと考えられます。縄文時代の土坑は、市内で初めて検出された縄文時代の遺構といえます。